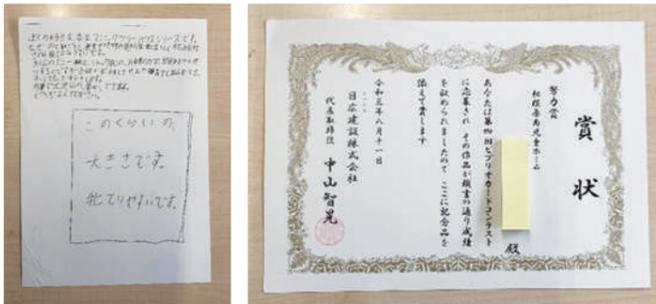


ビブリオカードコンテスト



日広建設様より、今年の夏もビブリオカードコンテストのお話をいただきました。

ビブリオカードコンテストとは、子どもたちの好きな本をイラストやあらすじ、本を読んだ感想をお友だちに紹介するカードを作成するコンテストで、今年もたくさん子どもたちがチャレンジしてくれました。

このコンテストは、活字離れたゲーム世代の子どもたちが本に親しみ、ふれあうという貴重な体験の場になっています。

今年は誰が入選するのか、皆、ドキドキわくわくしながら楽しみに待っています。(所長 曾我)

里親制度特設サイトのご案内

https://globe.asahi.com/globe/extra/satooyanowa/



里親制度や体験談等々、里親制度に関する情報が満載のサイトです。こどもの福祉に興味のある方、是非ご覧ください。



相模原市の里親制度についてのお問合せは

相模原市児童相談所 ☎042-730-3500

(里親担当まで：受付時間/平日 午前9時～午後5時)

意見箱について

子どもたちからの苦情や意見、要望等は、ユニットの担当職員に子どもたちが直接、話してくれることが多いのですが、中には「ユニットの職員には話づらい!」「匿名で意見や要望を伝えたい!」と希望する子どももいます。

相模原南児童ホームの意見箱は、誰もが自由に投函できるようになっており、年間で100件以上の意見や要望が投函されます。「お小遣いが少ないです!」「みんなに「うるさい!」と言われるそうですらいいですか?」「おやつをもっと増やしてほしいです!」等、一つ一つの意見や要望に対し、ユニット職員にも確認しながら丁寧に回答文章を作成し、子どもたちに速やかにフィードバック出来るように心がけています。

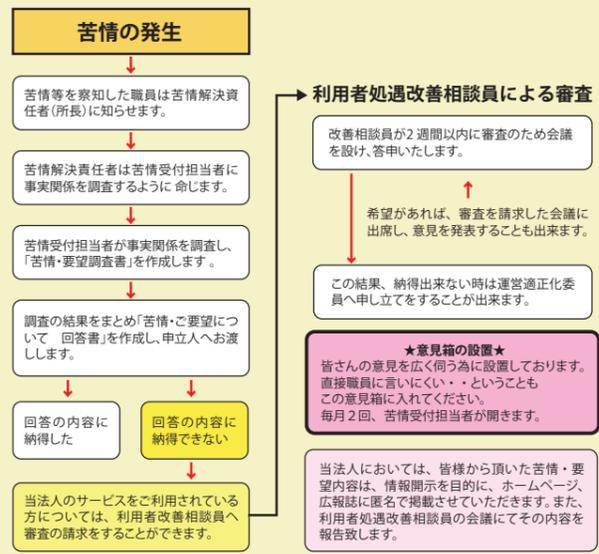
子どもたちの生活がより良くなるように言葉のキャッチボールを大切に、苦情受付担当として取り組んでいきたいと思ひます。(児童課 小林)

苦情・要望対応の流れ

相模原南児童ホームは、あなたの申し立てる苦情・要望について迅速かつ誠実にその解決が出来るよう努めます。

苦情解決責任者(事業所長)はあなたの申し立てる苦情・要望について、苦情受付担当者を指揮し、調査にあたらせるものとします。

原則として苦情・要望を受け付けた日から2週間以内に文書による回答を行います。



利用者処遇改善相談員とは?? 事業所に対して特別な利害関係を持たない第三者です。事業所を通さず直接連絡をとることをご希望の方は、ご要望内容を記載した文書を封緘(封筒に入れ第三者に見られないように閉じること)し、投函して下さい。宛先は、〒252-0326 相模原市南区新戸 905-1 処遇改善相談員行

ご寄付お礼【2022年4月～6月】

高田一美様/株式会社セクメット 瀬戸誠様/日本ロードマーク株式会社/渡邊直子様/芳賀建設工業株式会社 代表取締役 芳賀錠二様/会田吉美様/豊崎道則様/フードコミュニティ代表 中臺ひろし様/サンラッキー相模原店様/小林胡桃様/橋本よしこ様/日広建設株式会社様/鈴木由郎様/株式会社KMC 代表 相原朝晃様/小林俊一郎様/渡邊正男様/大井上敦子様/坂井瑞穂様/ニラク海老名本郷店様/田所利一様/富山めぐみ製薬株式会社様/小下健彦様/三ケ木郁様/大木美沙瑛様/他匿名2名

熱いご支援、ありがとうございます。

会議室の貸出について

会議室等のお部屋の貸し出し、親子サロン、学習支援におきまして、現在新型コロナウイルス感染症防止の関係で、ご利用を控えさせていただいております。再開にあたっては、ホームページ上にてお知らせ致します。ご理解・ご協力いただけますよう、よろしくお願い致します。

相模原南児童ホーム通信



発行日:2022(令和4)年9月10日 発行:社会福祉法人 中心会 相模原南児童ホーム 〒252-0326 相模原市南区新戸905-1 TEL:046-251-5590 URL http://sagamihara-minami.chusinkai.net/ Email:sagamihara-minami@chusinkai.jp 発行責任者:曾我幸央



何事にも諦めずに頑張れる子に

相模原南児童ホーム 所長 曾我 幸央



りに行けない子どもたちにクワガタを採ってきて下さったりとたくさんのご支援をいただきました。

今年の夏は異例の速さの梅雨明けから始まり、連日の猛暑、子どもたち、職員のコロナ感染もあり、夏休み前半は各自、ユニット内で隔離した生活を余儀なくされました。そのような中でも、子どもたちのために、地域の皆様より、「旬な野菜(果物)を食べて元気を出してほしい」、虫取り

皆様の温かい心遣いに感謝申し上げます。

夏の甲子園を制した仙台育英学園高等学校の須江監督が優勝インタビューで「青春ってすごく密なので～」という言葉に大きな反響がありました。「コロナ禍で制限がかかり、今まで当たり前でできたことができなくなり、諦めてしまったり、努力しなくなってしまふ。その様な状況下でも諦めずに頑張ってくれた全ての球児に拍手してもらえたら～」といった内容でした。

コロナ禍も4年に入り、ホームの中でも子どもたちにも制限をかけている中で、チャレンジしたり、諦めずに最後まで取り組む体験がコロナ禍前より格段と少なくなっていると感じます。

コロナの収束はまだ、先が見えませんが、青春が密な子どもたちに、諦めずに頑張れるような体験を少しでも多く、見出していけたらと思ひます。

施設内垣根の剪定ボランティアのお礼

相模原南児童ホーム 副所長 手塚 賢二

7月29日(金)、厚木市より株式会社梶谷創建の皆様方へ来訪して頂き、ボランティアにて当施設内垣根の剪定を行なって頂きました。当日はとて暑の中、4名の職人さんに朝早くから夕刻の辺りが暗くなるまでご尽力頂きました。

近隣地域の道路に枝が出ているものもあったのですが、とても綺麗に剪定され、風通し良い環境となりました。子ども達含め職員一同大変感謝致しております。

誠に有難うございました。



## 夏休み中の「特別day」。 花火大会や流しそうめんを 楽しみました!



夏休みに花火大会、流しそうめんを実施しました。コロナ禍にあり開催できるか心配でしたが、無事行うことが出来ました。

花火大会では、花火自体が初めてという子どももあり、花火で遊ぶことをとても楽しんでいる様子がありました。色が変わる花火やパチパチと音が鳴る花火など、様々な種類の花火を楽しんでいました。流しそうめんは、ユニットのベランダにて行いました。流しそうめんの機械を使うのではなく、実際に竹を使用した本格的な流しそうめんです。

流れてくるそうめんに子ども達は興味津々で、夢中になりながらそうめんを取る姿が印象的でした。また、そうめんを取るだけでなく、流す方にも挑戦したりと色々な経験が出来ました。

施設内でもコロナ感染が蔓延し、夏の行事が行えるのか子ども達も職員も不安でしたが、夏休みの思い出づくりができ良かったです。まだまだ安心はできない状況ですが、制限がありながらも楽しめるよう工夫して過ごせたらと思います。(児童課 高橋)

## ミルクを飲む赤ちゃんが、次々に仲間入りをしました。

ミルクを飲む赤ちゃんが、次々に仲間入りをしました。今までのお部屋の様子が一変し、ベビーベッドがたくさん並ぶようになりました。

「おなかすいたよー」「おむつが汚れたよー」「だっこしてほしいよー」「ねむたいよー」次々に泣いて教えてくれ、お部屋はとてにぎやかです。

私たちは、何人赤ちゃんがいても、抱っこし、しっかり目を見てミルク、を心がけています。赤ちゃんが満たされるのは、おなかだけでなく、優しい温かい心を同時に飲んでいるのですから。

その中で、歩ける子は、職員のまねをして、ミルクを飲む赤ちゃんをトントンしたり、いいこと頭をなでたり、おもちゃを持っていったり、「泣いてるよ」と教えてくれたり、お世話をしてくれるおにいちゃん、おねえちゃん。赤ちゃんを、お世話しようとする様子に、よく見ている!!と驚くこと度々です。

でも、「だっこがいいの」と甘えん坊になることも。どの子もみ～んな抱っこが大好きです。(乳児課 中村)



コロナで隔離や制限がある中少しでも楽しめたらと考え、流しそうめんや水遊び、花火大会をしました。水遊びでは小中学生はもちろん、高校生も全力で楽しめており、びしょびしょになりながらたくさん遊ぶことが出来ました。花火ではたくさんの種類の花火を楽しみ、最後には線香花火で誰が一番長くできるかの勝負をしました。

子どもたちの大切な夏休み。友達と遊びにいく予定やバイト、ユニットでの活動を楽しみにしていたと思います。いろんな制限をされて不満等をこぼすこともあります。なんやかんや我慢して「しかたないよね」と受け止めてくれています。自分たちで何ができるか考えて話に来てくれることも。

少しでも楽しかった夏の思い出として子どもたちの心に残れば良いなと感じました。

これからも制限の中で楽しく過ごせるように工夫できたらと思います。(児童課 伊沢)



新型コロナウイルス感染症が蔓延している中、外出制限により、子どもたちは思うように遊べません。暇を持て余してしまうことが多くありますが、工夫し、ゲームやお絵描き、ダンスを踊る等々好きなことをして過ごしたり、家事を手伝ってくれたりしています。日々我慢をして頑張ってくれている子どもたちのために、夏休みに「特別Day」と称し、ユニット全員で、水遊びや花火、ケーキ作り、ゲーム大会等一日遊ぶ日を設けました。普段できないことが出来て、子どもたちも嬉しそうで、大人も子どももみんな楽しんで出来ました。今後も、新型コロナウイルス感染症の終息の目処が立たない中で、子どもたちに制限をかけざるを得ない状態が続くと思われませんが、子どもたちが笑顔で安心して楽しく生活できるよう、他の職員さんと力を合わせ、様々な工夫できることを考えていきたいです。(児童課 原)



## 職員だより



コロナ禍の影響下にあっても、職員が楽しく過ごす工夫を考えながら、子ども達と共に過ごしている様子について

「いつもありがとうございます☺」

相模原南地区 更生保護女性会のみなさんが、乳児院の子どもたちのために手作りしてくれました。

☆お風呂やプールの時に使う厚手の手作りバスマット

☆発熱時に子どもたちの脇の下に入れて体を冷やすための冷却材入れ

☆お部屋を消毒するための雑巾(小中学生も新学期に学校に持って行っています)

☆お砂場着の相談もしています

子どもたちの必要なものを聞いてくれて、リクエストの通りに、たくさん作ってくれるので、本当に感謝です。

(乳児課 栗原)



●バスマット



●冷却材入れ



●お砂場着

## ～心理療法担当職員の仕事案内～



心理士ってどんな人?何をしているの?よく分からない……

心理士をしているところのような質問をよく受けます。そこで、簡単にはありませんが、乳児院・児童養護施設で働く心理士の仕事について紹介します。

子どもは自分の悩みや思いを大人よりも上手く言葉で言えません。その為、夜泣き、不眠、痲癢、不安、元気がない等の体や感情を通してメッセージを訴えます。心理士はお話を聞いたり、遊びをしたり、検査を取ったりして子どもが出すメッセージについて心理的視点で理解に努めます。そうした理解に基づいて心理的支援を提供します。

また、子どもへの支援には子どもだけではなく、様々な人が関係しています。子どもに関わる様々な人に対して施設内・外の様々な専門性を持った職員の方が連携・協力しています。心理士もそのチームの一員として加わり、心理学的視点から関わっていきます。

乳児院・児童養護施設で働く心理士は主にこんな仕事をしています。

日本では心理士についてあまり知られていないのが現状ですが、これを機に少しでも知って頂ければ幸いです。

子どもや職員の方含め、多くの人に知って貰い、子ども達が少しでも安心や充実した日々を過ごせる様に心理士は知識や情報の提供もしています。

## 各課の心理療法担当職員から一言



<乳児課>

心理療法担当職員:徳永 恵子

乳児院には生後間もなくの新生児から2歳までの子ども達が生活しています。子ども達の暮らしと育ちや親子関係を支えるために、様々な専門性を持った職員がチームとして協働しており、心理士もそのチームの一員です。心理では子ども達の心身の発達状況の把握や心理療法、養育者へのコンサルテーション、家族・里親支援を行っています。

<児童課>

心理療法担当職員:黒岩 大地

低い自尊心、不安感、感情を調整できない、集中に困難を感じる、信頼の問題等々

これはアメリカ保健福祉省が配布している「トラウマの受けた子どものケアと子育て」に書かれている一部分です。もし、こうした事を子どもが抱えているのなら、それは辛い事です。

心理では子どもへの心理療法や関係者の方と相談・連携して子ども支援に関わっています。